

ヒレンジャク（レンジャク科） 全長18センチ

立春が過ぎたとは言え寒さは一段と厳しくなりました。

昔から、殆どの家庭では屋敷内に柿の木を植えてあったものです。しかし今の時代、どの家庭も収穫することなく、そのまま放置されている状態です。嗜好品が変わってしまったのと、色々と面倒な作業をしてからでないといくには食べられません。こんなことが影響しているのでしょうか。

しかし、野鳥達にとっては美味しいご馳走であり、黙って見ている筈がありません。12月は、まだ実が熟していないので誰も食べに来ません。そして年を越し、渋みが抜けてきた頃になると、橙色から褐色の干し柿のように色が変わってきました。



頭の冠羽が特徴的。

1月の柿の実が野鳥たちの美味しいご馳走となり、何処に行っても食べ放題です。さすがに2月まで残っている木は殆ど見当たりません。

2月4日、北檜岡で一本の柿の木に大勢の野鳥が群がっていた。最後の一本でしょうか、まだだいぶ残っているようです。数十羽のムクドリが、背の高いケヤキに陣取り、道路を通る車を眺め、すきを見て柿の実に群がります。他にも、ヒヨドリやツグミが順番待ちのようです。突然、数羽のヒレンジャクが現れました。



尾羽の先端が黄色いのがキレンジャクで、本種は赤いので区別されます。



大きく口を開いた。中は赤かった。

10 年ほど前に撮影したことがあったが、なかなか見る機会が無かった野鳥です。

おいしそうな柿の実に次々とやってくる数十羽のムクドリとツグミ。ヒレンジャクは少し遠慮がちにも、なんとか端っこの方で食べています。

小さなエナガもやってきました。なんと賑やかなこと。正に、ここは行列のできるレストランです。あんなにあった柿の実は二日間で食べつくされてしまい、元の静けさに戻りました。



後姿もかっこいい。



ツグミも、柿の実が好きなようだ。